

平成27年度 学校自己評価システムシート (清和学園高等学校)

| | |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 通信制・単位制の良さを生かしながら、自分の目的に合わせて生徒一人ひとりの夢や希望を叶える学校 |
|--------|--|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 基本的な生活習慣の確立を目指す 2 楽しいスクーリングとアクティブラーニングの推進 3 資格・検定試験の推奨と部活動の活性化 |
|------|--|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 3名 |
| | 生徒 | 2名 |
| | 事務局(教職員) | 2名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学校自己評価 | | | | | | | |
|--------|---|---|---|--|--|-----|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価(2月13日現在) | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な学習歴を持って入学してくる生徒の大半が基礎的な学力が不足している現状とスクーリングに教科書も持参せず出席する生徒も少なくない中、その改善が課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上を目指した工夫や改善がみられたか。 指導法の工夫や生徒への声かけで数を減らすことができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 週2回5時間の教科別スクールへの学び直しの実施。 スクーリング時に教科書・学習書・上履きの指導の徹底を実施し、守れない生徒は、スクーリングを欠席とする指導の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 教科別スクールに参加するよう積極的な声かけを行っているか。 参加していない生徒の指導が十分に行えたか。 教科書の整理整頓や持ち帰りの個別指導ができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 教科別スクールへの参加者が前年度より多くなった。 個々の教師の声かけや教師間の共通理解のもと、教科書・学習書・上履きの3点については、多くの生徒が改善した。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 分かるスクーリングの実施や教科別スクールでの個別対応を次年度以降も継続して実施していく。 スクーリングを受ける姿勢は確立しつつあるので、一歩進んで、単位習得率の向上に結び付けたい。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 単位習得率が教科によって差があり、楽しく分かるスクーリングの実施と生徒主体のアクティブラーニングの推進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 各教科によって単位習得率が違う中、指導内容の改善や工夫がみられたか。 生徒主体のスクーリングができるような教材や実習の工夫がみられたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 特に数学や英語といった生徒が中学校時代から苦手な教科については、副教材「ラスパ・ラルボ」を中心にスモールステップによる個別指導の徹底を図る。 理科の実験や教室での視聴覚教材を使っての生徒主体のスクーリングの実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 副教材を使っての個別対応の中で能力別プリント作成が実施できているか。 実験の事前準備や視聴覚教材の積極的な活用ができていくか。 | <ul style="list-style-type: none"> 個別対応のプリントも、各教科で作成できるように企画する。 教科によってばらつきがあるので、どの教科でも生徒主体のスクーリングが取り組めるよう検討していく。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 卒業率も毎年90%以上ではあるが、更に研究を重ね、単位習得率と卒業率を上げて、保護者からの信頼に応える。 アクティブラーニングの研究会にも積極的に参加し、研究を深める。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 本校では通信制高校としては全国初となる、国家資格の取得できる自動車科がある。合格率が毎年60~70%であるが更に合格率を上げることが課題である。 ゼミナールや資格演習で一つで多くの検定試験の合格を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎年3月に実施される国家試験の合格率を上げる取組ができたか。 検定試験においても一つでも多くの試験に合格させることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 自動車科においては、後期の1月より試験対策として、過去問や教師自らの自作の問題作成と解説の実施。能力別に分けたクラス編成の実施。 教科別スクールと資格演習の時間内での個別指導の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 過去問からの予想される問題の解説と、教師自らの自作問題での指導が十分できたか。 能力別の個別対応に対する教材がきちんとできているか。 | <ul style="list-style-type: none"> 今年度の国家試験の合格率は、過去最高の94%を記録した。受験生の中で合格できなかった生徒は一人だけであった。 教師のやる気が生徒にも蔓延し、放課後も帰る生徒は一人もいない状況を作ることができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 今年度の成果を来年度の学年でも継続できる取組の実施。 教師の自作プリントの申し送りや個別指導での基礎学力の徹底を図る。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 通信制高校ということもあり、部活動に参加する生徒が少ない中、学習以外でもやればできるという自信がつけられたらという観点から、部活動の推進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動の経験の少ない生徒が部活動に参加できるようになったか。 部活動を通して各種大会にも積極的に参加することができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ゼミナールや放課後の時間を使って生徒の能力にあった指導メニューの作成。 他校との練習試合や他校との交流活動の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動の経験の少ない生徒に部活動の楽しさが伝わるような指導ができたか。 他校との交流を通して、部活動の楽しさや勝つ喜びが分かち合えたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 文化部・運動部合わせて8つの部活動が活動することができた。 埼玉県定通制の大会で野球部ベスト4・卓球部ベスト4・バドミントン部が準優勝するなど一定成果を上げることができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 同好会からの部の昇格を目指した取組の徹底。 文化部の他校との交流の機会を増やす取組の実施。 |

| 学校関係者評価 | |
|---|------------|
| 実施日 | 平成28年2月27日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 通信制高校では、不登校の生徒も多く、基礎的な学力が不足している生徒が多く、先生方も大変だと思うが、生徒がやればできるを実感できる教育の推進をお願いしたい。 様々な生徒への対応は難しい面が多いと思うが、個々の生徒の良い面を伸ばす工夫を今後もお願いしたい。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 私学の特色が良く表れてわれていると思う。卒業率も他校と比べて、すぐれていると思うので、引き続き努力してほしい。 なかなか一口にわかるスクーリングも難しいと思うが、是非研究や研修を継続してほしい。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 過去最高の合格率を上げられたことは、素晴らしい事であり、是非来年度以降も、この成功体験を生かした取り組みを引き続き継続して頂きたい。先生方お疲れ様でした。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 成績を上げることも必要なことではあるが、まずは、高校生活を楽しんでもらいたい。 土曜日・日曜日の大会に先生方が家族を犠牲にして熱心に取り組んで頂いている姿に感謝する。 | |

